



# 2026年3月期 中間期決算説明会

TDK株式会社  
2025年10月31日



本日のアジェンダ

# Agenda



1. 2026年3月期  
中間期連結業績概要
2. 2026年3月期  
通期業績の見通し

# 1. 2026年3月期 中間期連結業績概要

副社長執行役員CFO 山西 哲司

山西でございます。本日はご多忙のところ、当社2026年3月期中間期決算説明会に多数ご参加いただき、誠にありがとうございます。それでは私より連結業績概要についてご説明します。

## 2026年3月期 中間期決算のポイント

- ▶ ICT市場及びHDD市場の堅調な需要により前年同期比で増収、大幅な増益
- ▶ 中間期として、売上高及び営業利益で過去最高を更新

### 売上高

**11,834 億円**

〔 前年同期比 **+8.6%** 〕

### 営業利益

**1,476 億円**

〔 前年同期比 **+10.7%** 〕

### ポイント

- ICT市場向け小型二次電池、センサの販売が増加
- HDD市場需要が前年を大きく上回り、HDDサスペンションの販売が大幅に増加
- BEV（電気自動車）の販売減速により、自動車市場向け受動部品の販売が減少
- 産業機器市場向け小型二次電池、受動部品及びセンサの販売が増加

当中間期決算のポイントについてご説明します。

当社の業績に影響を与えるエレクトロニクス市場では、ICT関連製品の生産が前年同期比で堅調に推移し、データセンター向けニアライン用HDDの需要も引き続き堅調に推移しました。また、産業機器市場では、再生エネルギー向けの需要が底堅く推移しました。一方で、自動車市場においては、BEV（電気自動車）の需要低迷が継続し、期初想定を下回る部品需要となりました。

このような経営環境のなか、当中間期は、センサ応用製品、磁気応用製品、エネルギー応用製品の3つのセグメントにおいて、ICT市場及び産業機器市場における堅調な部品需要や、関税措置による前倒し需要等により、前年同期比で8.6%の増収、10.7%の増益となり、中間期として売上高及び営業利益で過去最高を更新しました。

市場分野別セグメント別の販売は、ICT市場向けで小型二次電池やセンサの販売が増加、HDD市場の需要が前年を大きく上回り、HDDサスペンションの販売が大幅に増加しました。一方でBEVの販売減速により自動車市場向け受動部品の販売が減少しました。産業機器市場向けでは、小型二次電池、受動部品及びセンサの販売が増加しました。

## 2026年3月期 中間期連結決算概要

- ▶ 売上高及び営業利益は前年同期比で増収増益
- ▶ 売上高及びすべての段階利益で過去最高を更新

| (億円)                 | 2025年3月期<br>中間期実績 | 2026年3月期<br>中間期実績 | 前年同期比   |        |
|----------------------|-------------------|-------------------|---------|--------|
|                      |                   |                   | 増減      | 増減率    |
| 売上高                  | 10,895            | 11,834            | +939    | +8.6%  |
| 営業利益                 | 1,333             | 1,476             | +143    | +10.7% |
| 営業利益率                | 12.2%             | 12.5%             | +0.3pt  | -      |
| 税引前利益                | 1,373             | 1,475             | +102    | +7.4%  |
| 親会社の所有者に帰属する<br>中間利益 | 1,057             | 1,114             | +57     | +5.4%  |
| 1株当たり中間利益 (円) ※      | 55.72             | 58.70             | -       | -      |
| 対ドル為替レート (円)         | 152.76            | 146.08            | 4.4%の円高 |        |
| 対ユーロ為替レート (円)        | 166.03            | 168.07            | 1.2%の円安 |        |

※: 当社は、2024年10月1日を効力発生日として、普通株式1株を5株に分割いたしました。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して算定しております。



### 為替変動による影響金額

|      |           |
|------|-----------|
| 売上高  | 約417億円の減収 |
| 営業利益 | 約92億円の減益  |

### 為替感応度

(1円の変動による影響額)

#### ドル

|      |       |
|------|-------|
| 売上高  | 110億円 |
| 営業利益 | 20億円  |

#### ユーロ

|      |      |
|------|------|
| 売上高  | 20億円 |
| 営業利益 | 3億円  |

当中間期の業績概要をご説明します。

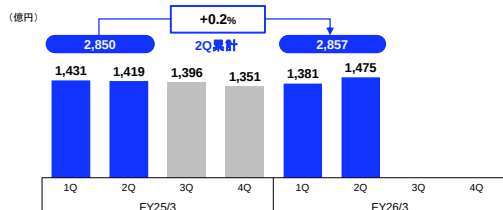
対ドル等の為替変動で売上高が約417億円の減収、営業利益で約92億円の減益影響を含み、売上高1兆1,834億円、前年同期比939億円、8.6%の増収、営業利益は1,476億円、前年同期比143億円、10.7%の増益となりました。税引前利益は1,475億円、前年同期比102億円、7.4%の増益、親会社の所有者に帰属する中間利益は1,114億円、前年同期比57億円、5.4%の増益となり、中間期として売上高、及びすべての段階利益で過去最高を更新しました。一株当たり利益は58円70銭となります。為替の感応度につきましては、円とドルの関係におきましては前回同様1円の変動で年間約20億円、円とユーロの関係におきましては約3億円と試算しています。

## 中間期 事業別概況

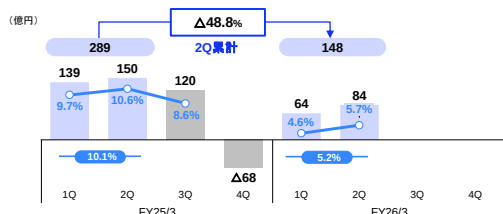
### 受動部品

- ▶ 産業機器市場向け販売が増加も、自動車市場向け販売が減少し減益

#### 売上高



#### 営業利益・営業利益率



#### セラミックコンデンサ

- ・前年同期比で減収減益
- ・産業機器市場向け販売が増加も、自動車市場向け及びICT市場向け販売が減少

#### アルミ・フィルムコンデンサ

- ・前年同期比で増収減益
- ・産業機器市場向け販売が増加も、自動車市場向け販売が減少。構造改革費用を計上

#### インダクティブデバイス

- ・前年同期比で増収減益
- ・ICT向け販売が増加も、自動車市場向け販売が減少

#### 高周波部品

- ・前年同期比で減収減益
- ・ICT市場向け及び産業機器市場向け販売が減少

#### 圧電材料部品・回路保護部品

- ・前年同期比で増収減益
- ・産業機器市場向け販売が増加も、自動車市場向け販売が減少

当中間期のセグメント別の状況についてご説明いたします。

受動部品は、産業機器市場向け販売が増加したものの、自動車市場向け販売が減少し、売上高は2,857億円、前年同期比0.2%の微増、営業利益は27億円の構造改革費用を含み148億円、48.8%の減益となりました。

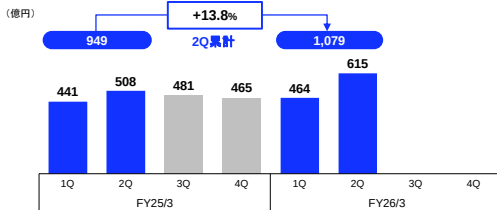
自動車市場向けの売上構成が高いセラミックコンデンサが減収減益、アルミ・フィルムコンデンサは自動車市場向け販売が減少ながら、再生エネルギー向け販売が増加し増収も、ポートフォリオマネジメントの一環として構造改革費用27億円を計上したことにより減益となりました。インダクティブデバイスはICT向け販売増加ながら自動車市場向け販売減少により増収減益となりました。高周波部品はICT市場向け及び産業機器市場向け販売減少で減収減益となりました。圧電材料部品・回路保護部品は、産業機器向け販売増加も、自動車向け販売が減少し増収減益となりました。

## 中間期 事業別概況

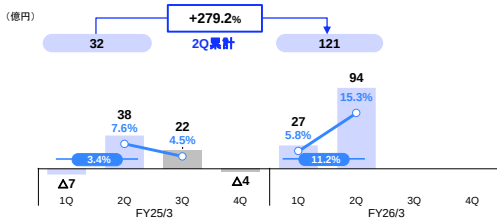
### センサ応用製品

▶ ICT市場及び産業機器市場向け販売が増加し大幅な増益

#### 売上高



#### 営業利益・営業利益率



#### 温度・圧力センサ

- ・ 前年同期比で売上横ばい、減益
- ・ 家電市場向け販売が減少

#### 磁気センサ

- ・ 前年同期比で増収、利益横ばい
- ・ ICT市場向け販売が増加

#### MEMSセンサ

- ・ 前年同期比で増収、黒字転換
- ・ ICT市場向けマイクロフォンの販売が増加
- ・ 産業機器市場向けモーションセンサの販売が増加

センサ応用製品事業は、売上高は1,079億円、前年同期比で13.8%の増収、営業利益は121億円、前年同期比大幅増益となりました。

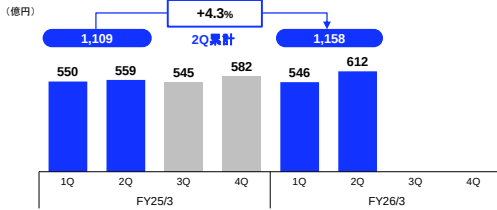
温度・圧力センサは売上横ばいのなか、家電市場向け販売減少で減益となりました。磁気センサは、ホールセンサにおいて自動車市場向け販売減少も、TMRセンサはスマートフォン向けピークシーズンにより増収、磁気センサ全体としても増収、利益は円高為替影響もあり横ばいとなりました。MEMSセンサは、マイクロフォンがICT市場向けで販売が増加していることに加え、モーションセンサが産業機器向けで販売増加となり、MEMSセンサ全体でも増収となり、黒字転換しました。

## 中間期 事業別概況

### 磁気応用製品

- ▶ HDD市場の堅調な需要によりHDDサスペンションの販売増、収益性大幅な改善

#### 売上高



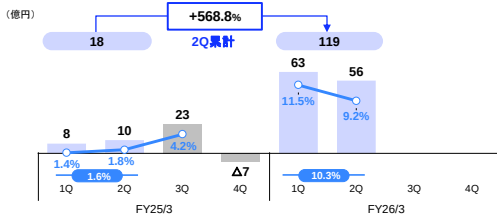
#### HDDヘッド・HDDサスペンション

- ・前年同期比で増収、大幅な増益

#### マグネット

- ・前年同期比で減収も、収益性改善

#### 営業利益・営業利益率



TDK In Everything, Better

Copyright © TDK Corporation, 2025.

8

磁気応用製品事業は、売上高は1,158億円、前年同期比4.3%の増収、営業利益は119億円となり大幅増益となりました。

HDDヘッド・サスペンションにおいてニアライン用に販売を伸ばし大幅な増益となりました。マグネットは自動車市場向け販売減少で減収ながら、品質改善等コスト改善効果もあり収益性は改善しています。

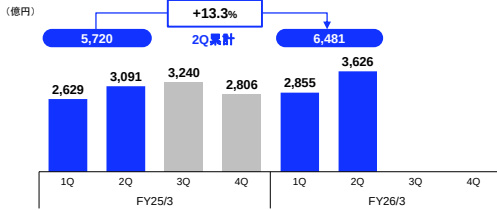


## 中間期 事業別概況

### エネルギー応用製品

- ▶ 小型二次電池は、ICT市場向け堅調な需要により販売数量増、増益

#### 売上高



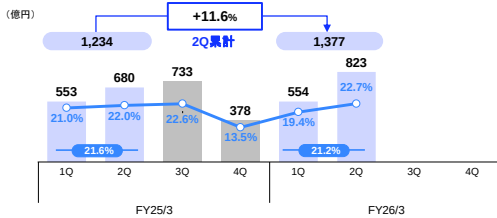
#### エネルギーデバイス (二次電池)

- ・ 前年同期比で増収増益
- ・ 小型二次電池は、販売数量増及び新モデル販売効果により大幅な増益
- ・ 産業機器市場向け小型及び中型二次電池の販売増

#### 電源

- ・ 産業機器用電源は減収減益

#### 営業利益・営業利益率



TDK In Everything, Better

Copyright © TDK Corporation, 2025.

9

エネルギー応用製品は、売上高は6,481億円、13.3%の増収、営業利益は1,377億円、11.6%の増益となりました。

二次電池においては、スマートフォン向け小型電池の販売数量増加や新モデル販売効果に加えスポット受注もあり増収、大幅増益となりました。中型電池も産業機器市場向け販売が増加しました。産業機器用電源は産業機器向け需要の大きな回復が見られず減収減益となりました。

# 2026年3月期 第2四半期連結決算概要

- 売上高及び営業利益は前年同期比で増収増益
- 四半期ベースで、売上高及びすべての段階利益が過去最高を更新

| (億円)                  | 2025年3月期<br>第2四半期実績 | 2026年3月期<br>第2四半期実績 | 前年同期比   |        |
|-----------------------|---------------------|---------------------|---------|--------|
|                       |                     |                     | 増減      | 増減率    |
| 売上高                   | 5,707               | 6,476               | +769    | +13.5% |
| 営業利益                  | 754                 | 912                 | +158    | +20.9% |
| 営業利益率                 | 13.2%               | 14.1%               | +0.9pt  | -      |
| 税引前利益                 | 677                 | 898                 | +221    | +32.6% |
| 親会社の所有者に帰属する<br>四半期利益 | 461                 | 699                 | +239    | +51.8% |
| 1株当たり四半期利益 (円) ※      | 24.29               | 36.86               | -       | -      |
| 対ドル為替レート (円)          | 149.74              | 147.54              | 1.5%の円高 |        |
| 対ユーロ為替レート (円)         | 164.30              | 174.31              | 4.9%の円安 |        |

※: 当社は、2024年10月1日を効力発生日として、普通株式1株を5株に分割いたしました。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して算定しております。



## 為替変動による影響金額

|      |          |
|------|----------|
| 売上高  | 約41億円の減収 |
| 営業利益 | 約21億円の減益 |

当第2四半期の業績概要をご説明します。

対ドル等の為替変動で売上高が約41億円の減収、営業利益で約21億円の減益影響を含み、売上高6,476億円、前年同期比769億円、13.5%の増収、営業利益は912億円、前年同期比158億円、20.9%の増益となりました。税引前利益は898億円、前年同期比221億円、32.6%の増益、親会社の所有者に帰属する四半期利益は699億円、前年同期比239億円、51.8%の大幅増益となり、四半期ベースでも売上高、及びすべての段階利益で過去最高を更新しました。  
一株当たり利益は36円86銭となりました。

## 事業別四半期実績

|               |             | 2025年3月期 | 2026年3月期 | 2026年3月期 | 前年同期比 [C]-[A] |         | 1Q-2Q推移 [C]-[B] |         |
|---------------|-------------|----------|----------|----------|---------------|---------|-----------------|---------|
| (億円)          |             | 2Q [A]   | 1Q [B]   | 2Q [C]   | 増減            | 増減率     | 増減              | 増減率     |
| 売上高           | コンデンサ       | 580      | 598      | 621      | +40           | +7.0%   | +23             | +3.8%   |
|               | インダクティブデバイス | 527      | 491      | 550      | +23           | +4.4%   | +59             | +12.1%  |
|               | その他受動部品     | 312      | 293      | 304      | △8            | △2.5%   | +12             | +4.0%   |
|               | 受動部品        | 1,419    | 1,381    | 1,475    | +56           | +3.9%   | +94             | +6.8%   |
|               | センサ応用製品     | 508      | 464      | 615      | +107          | +21.1%  | +151            | +32.5%  |
|               | 磁気応用製品      | 559      | 546      | 612      | +53           | +9.4%   | +66             | +12.2%  |
|               | エナジー応用製品    | 3,091    | 2,855    | 3,626    | +536          | +17.3%  | +771            | +27.0%  |
|               | その他         | 130      | 111      | 148      | +18           | +13.6%  | +37             | +32.8%  |
|               | 合計          | 5,707    | 5,358    | 6,476    | +769          | +13.5%  | +1,119          | +20.9%  |
| 営業利益          | 受動部品        | 150      | 64       | 84       | △66           | △43.9%  | +20             | +31.6%  |
|               | センサ応用製品     | 38       | 27       | 94       | +55           | +144.0% | +67             | +249.1% |
|               | 磁気応用製品      | 10       | 63       | 56       | +46           | +449.3% | △7              | △10.8%  |
|               | エナジー応用製品    | 680      | 554      | 823      | +143          | +21.0%  | +269            | +48.6%  |
|               | その他         | △12      | △25      | △15      | △3            | -       | +10             | -       |
|               | 小計          | 867      | 683      | 1,042    | +175          | +20.2%  | +359            | +52.7%  |
|               | 調整          | △113     | △118     | △130     | △17           | -       | △12             | -       |
|               | 合計          | 754      | 564      | 912      | +158          | +20.9%  | +348            | +61.7%  |
| 営業利益率         |             | 13.2%    | 10.5%    | 14.1%    | +0.9pt        | -       | +3.6pt          | -       |
| 対ドル為替レート (円)  |             | 149.74   | 144.59   | 147.54   |               |         |                 |         |
| 対ユーロ為替レート (円) |             | 164.30   | 163.78   | 172.31   |               |         |                 |         |



Copyright © TDK Corporation, 2025.

11

当第1四半期から第2四半期のセグメント別売上及び営業利益の増減要因についてご説明いたします。

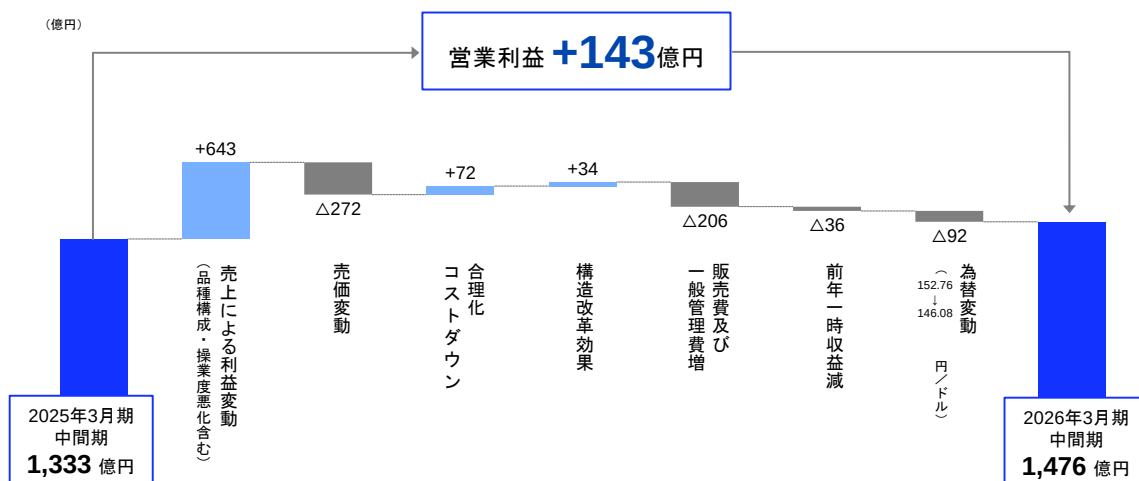
受動部品セグメントは、売上高は、第1四半期から94億円、6.8%の増収、営業利益は第2四半期発生の一時的費用37億円を除き、57億円の増益となりました。セラミックコンデンサは、8月に秋田地区で発生した洪水により生産が一時停止し、約10億円の損失影響がありましたが、自動車市場向け販売が増加し増収増益となりました。アルミ・フィルムキャパシタは、自動車市場向けや産業機器市場向け販売増加で増収、事業ポートフォリオマネジメントの一環で今後の収益改善に向けた体質改善の為に構造改革費用を27億円計上した結果、若干の赤字となりましたが、実質的には増益となりました。インダクティブデバイスは、自動車・産業機器市場向け販売の増加に加え、ICT市場向け販売が季節性もあり増加し、増収増益となりました。高周波部品は、ICT市場向け販売が季節性により増収となりました。圧電・回路保護部品は、産業機器市場向け販売増加で増収となりました。営業利益は一時費用の発生が37億円あったものの、全体的に増収により増益となりました。

センサ応用製品は、売上高は、第1四半期から151億円、32.5%の大幅増収、営業利益は67億円の増益となりました。温度・圧力センサは自動車・産業機器市場向け販売が増加し増収増益となりました。磁気センサは、ホールセンサ・TMRセンサともに、ICT市場向け需要の季節性により増収、大幅な増益となりました。MEMSセンサは、マイクロフォンが販売好調で増収、収益性も大きく改善し中間期でブレークイーブンを確保、モーションセンサも中国スマートフォンやゲーム機向けに増収増益となり、MEMSセンサ全体で第2四半期で黒字転換、中間期でも黒字を確保しました。

磁気応用製品セグメントは、売上高は、第1四半期から66億円、12.2%の増収、営業利益は7億円、若干の減益となりました。HDDヘッドは、主にニアライン用ヘッド新製品の販売数増加により全体数量が約14%の増加、増収に加え品種構成の好転もあり増益となりました。HDDサスペンションは、ニアライン用需要の増加で販売数量は約4%増加し増収増益となりました。マグネットは、売上ほぼ横ばいのなか、第1四半期は福利厚生施設売却益約10億円を含んでいるため減益となり、磁気応用製品全体では若干の減益となりました。

エネルギー応用製品セグメントは、売上高は、第1四半期から771億円、27%の増収、営業利益は269億円、48.6%の大幅増益となりました。二次電池において小型電池のICT市場向け販売が季節性による数量増加、新製品の構成比アップによるアイテムミックスの好転、さらにスポット受注もあり、大幅な増収・増益となりました。産業機器用電源は、緩やかな需要回復で増収増益となりました。EV用電源はBEV需要減少で赤字が続いています。

## 中間期 営業利益増減分析



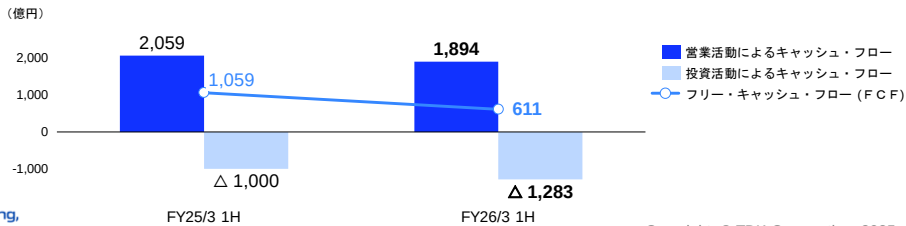
中間期の営業利益143億円増益の増減分析についてご説明します。

二次電池やHDDヘッド・サスペンション及びセンサの販売数量増加により643億円の増益となりました。合理化コストダウン72億円、前期実施の構造改革に伴う効果34億円による増益の一方、売値引きプレッシャーも強くなっており272億円の減益影響となっています。販管費は、新技術や新製品の開発等を加速している二次電池を中心に、R&D費用の増加もあり、206億円の増加しました。前年発生した一時収益の減少影響36億円、さらに円高為替影響92億円の減益影響もありましたが、販売数量増加効果により、全体で143億円の増益となりました。

# 中間期 キャッシュ・フロー

| (億円)                | 2025年3月期<br>中間期実績 | 2026年3月期<br>中間期実績 | 増減   |
|---------------------|-------------------|-------------------|------|
| 営業活動によるキャッシュ・フロー    | 2,059             | 1,894             | △165 |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー    | △ 1,000           | △ 1,283           | △283 |
| フリー・キャッシュ・フロー (FCF) | 1,059             | 611               | △448 |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー    | △ 328             | 282               | +610 |
| 為替変動による影響額          | △ 264             | 84                | +348 |
| 現金同等物残高             | 6,967             | 7,950             | +983 |

## ■ 営業キャッシュ・フロー、投資キャッシュ・フロー、フリー・キャッシュ・フロー推移



キャッシュ・フローの状況についてご説明いたします。

中間期の実績は、営業キャッシュ・フロー1,894億円、投資キャッシュ・フローはAIエコシステムに関連する企業の買収も含み1,283億円となった結果、フリー・キャッシュ・フローは611億円となり、中間期で想定していた水準を上回って推移しています。

以上、私からの説明を終わります。ありがとうございました。

## 2. 2026年3月期 通期業績の見通し

社長執行役員CEO 齋藤 昇

齋藤でございます。  
本日はお集まりいただきありがとうございます。2026年3月期通期業績見通しについて、ご説明します。

## 2026年3月期 業績予想の前提

### 主要デバイス市場予測

▶ ニアライン用HDD、自動車等は上方修正も、スマートフォンは下方修正し前期比横ばいを見込む

| (生産台数：百万台) | 2025年3月期<br>通期実績 (A) | 2026年3月期 通期予想 |              |            |              |
|------------|----------------------|---------------|--------------|------------|--------------|
|            |                      | 2025年4月予想     |              | 2025年10月予想 |              |
|            |                      | 予想値 (B)       | 増減率 (A)vs(B) | 予想値 (C)    | 増減率 (A)vs(C) |
| 自動車※       | 89.8                 | 90.8          | 1%           | 91.6       | +2%          |
| xEV        | 25.0                 | 31.7          | +27%         | 31.3       | +25%         |
| HEV        | 7.2                  | 8.4           | +17%         | 8.3        | +15%         |
| PHEV       | 6.9                  | 8.2           | +19%         | 8.2        | +19%         |
| BEV        | 11.1                 | 15.0          | +35%         | 14.7       | +32%         |
| スマートフォン    | 1,191                | 1,200         | +1%          | 1,191      | ±0%          |
| 5G スマートフォン | 746                  | 783           | +5%          | 800        | +7%          |
| HDD        | 123                  | 124           | +1%          | 123        | ±0%          |
| ニアライン      | 61                   | 62            | +2%          | 67         | +10%         |
| ノートパソコン    | 185                  | 187           | +1%          | 190        | +3%          |
| タブレット      | 144                  | 137           | -5%          | 144        | ±0%          |

※自動車は商用車を含む台数

業績予想の前提となる当社に関係する主要なデバイスの生産台数予想の見直しについてご説明します。

自動車市場は、自動車総生産台数を4月時点よりも上方修正してますが、xEVについては、BEVの台数を見直したことにより、下方修正しています。

ICT市場を代表するスマートフォン生産台数は、4月想定の12億台から11億9,100万台に見直しました。

HDD市場は、引き続き堅調な需要傾向がみられることから、データセンター向けニアラインHDDの生産台数を、4月時点よりも上方修正し、6,700万台と見直しました。



## 第3四半期の売上高増減イメージ

|              | 2026年3月期<br>第2四半期実績 | 2026年3月期<br>第3四半期予想（前四半期比） |                  | 増減要因                                    |
|--------------|---------------------|----------------------------|------------------|-----------------------------------------|
|              |                     | 為替レート<br>下期想定              | 為替レート<br>第2四半期基準 |                                         |
| 受動部品         | 1,475               | △4～△1%                     | △3～±0%           | ・自動車市場向けセラミックコンデンサの販売増も産業機器市場向け各種製品の販売減 |
| センサ応用製品      | 615                 | △14～△11%                   | △13～△10%         | ・ICT市場向け磁気センサの販売減                       |
| 磁気応用製品       | 612                 | +8～+11%                    | +9～+12%          | ・HDDサスペンションの販売増                         |
| エネルギー応用製品    | 3,626               | △8～△5%                     | △6～△3%           | ・ICT市場向け小型二次電池の販売減                      |
| その他          | 148                 | -                          | -                |                                         |
| 合計           | 6,476               | △6～△3%                     | △5～△2%           |                                         |
| 対ドル為替レート（円）  | 147.54              | 145.00                     | 147.00           |                                         |
| 対ユーロ為替レート（円） | 172.31              | 168.00                     | 172.00           |                                         |

第3四半期のセグメント別売上高増減イメージについてご説明します。

第3四半期以降の平均為替レートは、期初想定の為替レート140円から145円へ変更しましたが、比較しやすいように為替変動を除いた増減でご説明します。

受動部品は、自動車市場向け販売増を見込むものの、産業機器市場向け販売は減少を見込むため、全体では△3%から横ばい程度とみています。

センサ応用製品は、温度・圧力センサが自動車向けで増加も、磁気センサやMEMSセンサはスマートフォン向け販売が季節性ピークアウトや関税前倒し需要からの反動減により全体で△13%～△10%を見込んでいます。

磁気応用製品セグメントは、HDDヘッドが約3%の数量増、サスペンションが能力増加の寄与もあり約15%ほどの数量増を見込んでいるため、全体で+9%～+12%とみています。

エネルギー応用製品は、小型電池はスマートフォン市場向けにおける季節性や、関税影響による前倒し反動減により減少するとみており、全体で△6%～△3%を見込んでいます。

## 2026年3月期 連結業績見通し

▶ ICT市場における堅調な実績を反映して、通期業績見通し及び配当を上方修正

| (億円)                 | 2025年3月期<br>通期実績 | 2026年3月期通期予想 |               | 前期比    |        |
|----------------------|------------------|--------------|---------------|--------|--------|
|                      |                  | 2025年4月発表    | 2025年10月発表    | 増減     | 増減率    |
| 売上高                  | 22,048           | 22,000       | <b>23,700</b> | +1,652 | +7.5%  |
| 営業利益                 | 2,242            | 2,250        | <b>2,450</b>  | +208   | +9.3%  |
| 営業利益率                | 10.2%            | 10.2%        | <b>10.3%</b>  | +0.1pt | -      |
| 税引前利益                | 2,378            | 2,380        | <b>2,500</b>  | +122   | +5.1%  |
| 親会社の所有者に帰属する<br>当期利益 | 1,672            | 1,700        | <b>1,800</b>  | +128   | +7.7%  |
| ROIC                 | 6.7%             | 7.1%         | <b>7.2%</b>   | +0.5pt | -      |
| FCF                  | 2,010            | 700          | <b>800</b>    | △1,210 | △60.2% |
| 1株当たり当期利益（円）         | 88.10            | 89.58        | <b>94.84</b>  | -      | -      |
| 年間配当金（円）             | 30.00            | 30.00        | <b>32.00</b>  | -      | -      |
| 対ドル為替レート（円）          | 152.66           | 140.00       | 146.00        | -      | -      |
| 対ユーロ為替レート（円）         | 163.86           | 155.00       | 168.00        | -      | -      |

2026年3月期通期業績の見通しについてご説明します。

米国による関税措置の影響が限定的と考えられることから、ベースシナリオ・リスクシナリオの2つの業績予想からベースシナリオのみでの業績予想とします。

先ほどご説明したとおり、当中間期のエレクトロニクス市場において、自動車市場の需要は低調に推移したものの、スマートフォンやHDD等のICT市場の生産は前年同期を上回り堅調に推移しました。そのため、当中間期の業績は、今年4月28日発表時の想定を上回る水準となりました。ICT市場において、新モデル立ち上がりや関税措置による前倒し需要等もあり二次電池及びセンサの販売が拡大しました。また、データセンター向けの需要が堅調に推移し、HDD用サスペンションの販売が好調に推移しました。

これらを踏まえ、通期業績予想を見直した結果、今年4月28日発表の見通しから上方修正し、売上高は2兆3,700億円、営業利益2,450億円、親会社の所有者に帰属する当期利益1,800億円とします。

下期為替レートについては期初から変更し、対ドル145円を前提としています。

また、事業ポートフォリオマネジメントを推進し課題事業へ対処するために、構造改革費用等の一時費用を期初予想から約50億円追加し、通期合計で約100億円計上することを見込んでいます。

1株あたり配当見通しについては、期初発表の年間配当30円から増額し、中間配当16円、期末配当16円で、合計32円を予定しています。

2025年 11月28日 金 15:30-17:00

ハイブリッド開催  
後日、アーカイブ配信予定

## TDK Investor Day - 中期経営計画進捗説明会 -

### 1. 中期経営計画進捗説明会

- ▶ 長期ビジョン達成に向けた道筋
- ▶ 中期経営計画の進捗  
(環境変化及びその対応策について)
- ▶ 事業ポートフォリオマネジメントの進捗

社長執行役員CEO  
齋藤 昇



副社長CFO  
山西 哲司



受動部品C CEO  
佐藤 茂樹



センサC CEO  
筒井 隆雄



戦略本部長  
生嶋 太郎



磁気ヘッドC CEO  
Albert Ong



エナジーC CEO  
指田 史雄

### 2. 社外取締役対談



社外取締役  
中山 こずゑ



社外取締役  
岩井 睦雄



社外取締役  
山名 昌衛



社外取締役  
勝本 徹

Copyright © TDK Corporation, 2025.

18

最後に1つお知らせがあります。

11月28日にTDK Investor Dayを開催します。長期ビジョン達成に向けた道筋、中期経営計画及びポートフォリオマネジメントの進捗についてご説明します。また、社外取締役4名が登壇し、ガバナンスの実効性等について、投資家の皆様と直接対話をする予定です。

当日は会場とライブ配信のハイブリット開催を予定していますので、ぜひご参加ください。

アーカイブ掲載予定リンク：

[https://www.tdk.com/ja/ir/ir\\_events/strategy/index.html](https://www.tdk.com/ja/ir/ir_events/strategy/index.html)

以上で、私からの説明を終わります。ありがとうございました。

## 将来に関する記述についての注意事項

この資料には、当社または当社グループ（以下、TDKグループといいます。）に関する業績見通し、計画、方針、経営戦略、目標、予定、認識、評価等といった、将来に関する記述があります。これらの将来に関する記述は、TDKグループが、現在入手している情報に基づく予測、期待、想定、計画、認識、評価等を基礎として作成しているものであり、既知または未知のリスク、不確実性、その他の要因を含んでいるものです。従って、これらのリスク、不確実性、その他の要因による影響を受けることがあるため、TDKグループの将来の実績、経営成績、財務状態が、将来に関する記述に明示的または黙示的に示された内容と大幅に異なったものとなる恐れもあります。また、TDKグループはこの資料を発行した後は、適用法令の要件に服する場合を除き、将来に関する記述を更新または修正して公表する義務を負うものではありません。

TDKグループの主たる事業活動領域であるエレクトロニクス市場は常に急激な変化に晒されています。TDKグループに重大な影響を与え得る上記のリスク、不確実性、その他の要因の例として、技術の進化、需要、価格、金利、為替の変動、経済環境、競合条件の変化、法令の変更等があります。なお、かかるリスクや要因はこれらの事項に限られるものではありません。

また、本資料では、業績の概略を把握していただく目的で、多くの数値は億円単位にて表示しております。百万円単位にて管理している原数値を丸めて表示しているため、本資料に表示されている合計額、差額などが1億円の桁において、不正確と見える場合があります。詳細な数値が必要な場合は、決算短信及び補足資料を参照していただきますようお願いいたします。



決算説明会の質疑応答を含むテキスト情報は以下のページに後日掲載いたします。  
[https://www.tdk.com/ja/ir/ir\\_events/conference/2026/2q\\_1.html](https://www.tdk.com/ja/ir/ir_events/conference/2026/2q_1.html)